

講演大会記事

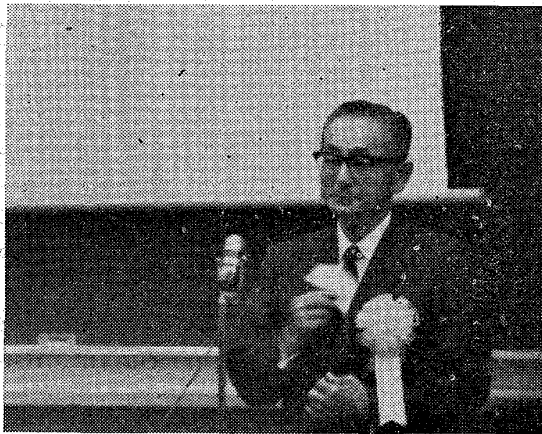
第 70 回講演大会

第70回講演大会は10月13日(水)より15日(金)までの3日間、九州工業大学において開催され、ついで10月16日(土)には見学会が行なわれた。

北九州地区での大会開催は昭和32年以来8年振りのことで、会期中俄雨に見舞われたが比較的好天氣に恵まれ、共同研究会報告講演会、特別講演会の行事が研究発表プログラムの中に織込まれ、盛会のうちに滞りなく終了した。

なお今回は最近における講演数の増加ならびに使用会場の収容力の関係から、日本金属学会と同一時期に同一会場での開催ができず、日程調整を行なつたうえでそれぞれ単独で講演大会を開催した。

講演大会



開会の挨拶をされる湯川会長

1. 開会式 10月13日(水) 8時50分から第5会場において行なわれた。初めに和田亀吉大会実行委員長(九州支部長)の歓迎の挨拶があり、ついで湯川会長が「第70回講演大会が和田実行委員長はじめ関係各位のご尽力で8年振りに九州地区で開催される運びとなつた。会場となる九州工業大学も8年前に比べ見違えるほど整備され、新しい教室の使用も許可されたほか、種々ご理解を賜つた大学当局のご配慮に深く感謝を表する次第である。最近におけるわが国の経済情勢は苛酷な状況にあり、鉄鋼業界も減産を余儀なくされているが、コストの低減はますます必要で、そのために研究の重要性はますます増大し、その発表機関である本講演大会の意義はいよいよ深いものがあると考え。と同時に講演に対する討論を活発にして十分な成果を挙げ、有意義な講演大会となるよう祈る」と挨拶があつて、開会式を終つた。

2. 講演大会 開会式終了後、製鉄(第1, 第2会場)、製鋼(第3, 第4)、加工・性質(第5, 第6, 第7)の7会場に分れ講演発表が行なわれた。今回の講演発表は188件におよび、全国各地から集まつた会員をはじめ、作業服のまま聴講にかけつける会員もあり熱心な討論が

各会場でくりひろげられた。また討論会形式の講演会は今回は製鉄関係の「焼結原料の分類について」1件だけであつたが、1時間の討論時間をいっぱいを使い活発な質疑応答が行なわれた。九州地区での開催という地理的な制限はあつたが参加者は1000名を越え盛況であつた。

共同研究会報告講演会

10月14日(木) 9時より九州工業大学記念講堂において今井勇之進理事司会のもとで開催された。初めに共同研究会幹事長山岡武君から開会の挨拶があり、次いで下記部会より、最近の研究報告ならびに最近における技術的な問題点について興味深い講演があり、極めて有意義な講演会であつた。聴講者約300名。

講演

最近の製鋼法の進歩について

製鋼部長 井上敏郎君

鋼管製造技術上の2, 3の問題について

鋼管部会長 原田芳君

線材圧延工場の設備と技術の進歩について

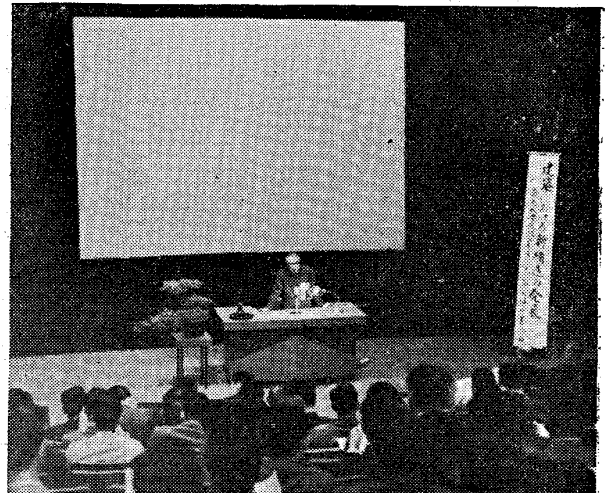
条鋼部会線材分科会主査 浅田幸吉君

特別講演会

10月14日(木)、15時より九州工業大学記念講堂において海江田弘也理事司会のもとで開催された。

今回の特別講演会は、会員各位からの「鉄鋼の大口需要先である関連産業界から鉄鋼材料に対する要望とその業界の将来の展望」などについて講演を願い、鉄鋼に従事する会員に対し啓蒙を図るよとの要望にもとづいて企画されたもので、造船界、建築界の第一線にあつて活躍の方々から講演していただくこととなつた。

特別講演会はまず和田大会実行委員長の開会の挨拶に始まり、湯川会長から講師の経歴ならびに業績の紹介(各講演の初め)があり、下記の講演が行なわれた。会場は演題が興味あると同時に直接製品に結び付くだけに、用意した講演前刷はたちまち足りなくなるという盛況で、



特別講演会場

600名を超える聴講者に深い感銘を与えた。終つて三ヶ島大会副実行委員長から閉会の挨拶があり、最後に両講師に参会者一同感謝の拍手を送つて特別講演会を閉じた。

講演

造船業界の将業の展望と鉄鋼材料に対する要望

三菱重工業(株)長崎造船所

副所長 秋 友 素 身氏

建築における新構造の発展

東京大学教授、日本建築学会副会長

坪 井 善 勝氏

なお、講演内容は鉄と鋼第52年第1号に掲載の予定。

見学会

第70回講演大会の最後の行事である見学会は、好天気にも恵まれた10月16日(土)に行なわれた。

見学会はダイナミックな躍進を続ける北九州工業地帯と、異国的な情緒を持つ造船の街長崎と4班に別れ150名が参加した。見学内容は別掲の見学記をご覧願うこととして、われわれのために工場見学をご許可下さった関係各社に改めて謝意を表します。

なお見学班中D班、E班は都合により見学は取止めとなった。

見学工場次の通り

- A班 八幡製鉄(株)八幡製鉄所、黒崎窯業(株)、(株)安川電機製作所
- B班 八幡化学工業(株)戸畑製造所、八幡製鉄(株)工作本部、八幡製鉄(株)戸畑製造所、八幡エコンスチール(株)戸畑工場
- C班 日本磁力選鉱(株)牧山工場、住友金属工業(株)小倉製鉄所、東京製綱(株)小倉工場、東洋陶器(株)
- F班 三菱製鋼(株)長崎製鋼所、三菱重工業(株)長崎造船所

婦人見学会

大会に参加した会員夫人のために10月14日(木)北九州市内観光を織込んだ工場見学会を行なった。見学先は八幡製鉄(株)戸畑製造所、東洋陶器(株)と高塔山、若戸大橋、河内貯水池、早鞆の瀬戸で小人数ながら予定時間を数時間超過する熱心さであつた。詳細は別掲見学記を参照のこと。



婦人見学班



懇親会場風景

懇親会

大会第1日目の10月13日(水)、17時30分から150余名の参会を得て小倉ステーションホテル5階大ホールで開催された。講演会場の九州工業大学から懇親会場まで参会者のためにバス2台を仕立て、途中、実行委員会のおはからいで、開会までの時間を利用して若戸大橋を中心に八幡、戸畑、小倉と北九州市内を遊覧し会場に向つた。

懇親会は和田大会実行委員長の挨拶で始まり、湯川会長の挨拶ののち、来賓として出席の九州工業大学妻木貞一学長から「鉄鋼協会のような大学の講演大会が九州工業大学で開かれることは、学内はもとより、その関係方面に大きな刺激を与え、影響力は大なるものがあると思ふ。大会の成切を祈る」との挨拶があつた。続いて参会者の最長老である三島本会前会長の音頭で全員乾杯を交わし開宴した。

会場は湯川会長夫人、三島前会長夫人をはじめ会員夫人10名余が参加し、なごやかな雰囲気の中に、一段とはなやかなさを増し、八幡製鉄社員有志の編成するハワイアンバンドの奏なでる軽快なリズムをバックに楽しく交歓の一時を過した。最後に嘉村平八九州工業大学前学長の発声で万才を三唱19時30分すぎ名残りを惜しみながら散会した。

見学記

A 班

八幡製鉄(株)八幡製造所

9時最初の見学先である八幡製鉄所の技術研究所講堂に集合した一行は32名であつた。まず石原技術部長から会社概況のご説明があつた。製鉄の町八幡を一望に見下ろす研究所からの八幡地区工場130万坪の広大な全ぼうは正に雄大の一言に尽きる。工場へ原料を運ぶ大型船の姿も遠くてケシ粒のように小さく見えた。排煙のかなたに見えかくれするので、高炉の位置さえも注視しなければ見過ごしてしまいそうであつた。説明後、直ちにバスで八幡地区洞岡工場へ向かつた。

八幡地区には8基の高炉、20基の平炉、3基の転炉、2基の電気炉があり、ほかに延約50万t/月の能力を有する分塊、圧延設備を有しているとのことである。